

平成 27 年度動物愛護週間中央行事実施結果

1 動物愛護週間中央行事への参加

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な飼養について理解と関心を深めるために設けられているもので、国及び地方公共団体はその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないことが「動物の愛護及び管理に関する法律」の第 4 条に定められている。

本会は、本年についても、東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する中央行事実行委員会に主催者構成団体として参画した。

2 平成 27 年度動物愛護週間中央行事の実施結果

平成 27 年度動物愛護週間中央行事は、屋内行事が、9 月 6 日（日）東京国立博物館 平成館講堂で、屋外行事が、9 月 12 日（土）上野恩賜公園噴水池前広場で開催された。

【スローガン】 「いのち輝け 人と動物の愛の輪で」
【テーマ】 “ 飼う前も、飼ってからも考えよう ”

(1) 9 月 6 日（日） 13：00～16：30 屋内行事

屋内行事は、東京国立博物館 平成館講堂にて、以下の 2 部構成で実施された（参加者：236 名）。

まず、環境省をはじめ実行委員会構成団体による各表彰式が行われた。本会は、「第 27 回日本動物児童文学賞表彰式」を実施した。

続いて、青森県立三本木農業高校卒業生及び元担当教諭による講演「命の花プロジェクトが教えてくれたこと」が行われた。講演は、本プロジェクトの取材を基に執筆した本「世界でいちばんかなしい花」の著者であるフリーライターの瀧 晴巳 氏の進行で進められ、また、本プロジェクトの協力者として、滝川クリステル氏も出席し、報道関係者も多数集まった。

〔 第 27 回日本動物児童文学賞表彰式 〕

本年度大賞受賞者である矢代 稔氏に、奥主 喜美 環境省自然環境局長から環境大臣賞、境政人 本会専務理事から日本動物児童文学大賞、小柳 雅一 損害保険ジャパン日本興亜株式会社団体・公務開発部第二課長から副賞が授与された。

続いて、優秀賞受賞者である山岡 ヒロミ 氏に、境政人 本会専務理事から日本動物児童文学優秀賞と、末松 茂道 アニコム損害保険株式会社取締役から副賞が授与された。

最後に、もう一人の優秀賞受賞者である 江馬 則子 氏に、境政人 本会専務理事から日本動物児童文学優秀賞と、小柳 雅一 損害保険ジャパン日本興亜株式会社団体・公務開発部第二課長から副賞が授与された。



図1 第27回日本動物児童文学賞表彰式での受賞者とプレゼンターの記念撮影

【日本動物児童文学大賞】

「アザラシ物語」 矢代 稔 (神奈川県)

【日本動物児童文学優秀賞】

「家族になってくれてありがとう」 山岡ヒロミ (愛媛県)

「よわむしくんの決意」 江馬 則子 (奈良県)

〔動物愛護講演〕

【講演】 「命の花プロジェクトが教えてくれたこと」

ゲストスピーカー：駒井樹里称氏、竹ヶ原春乃氏、安田 凜氏
(青森県立三本木農業高校「命の花プロジェクト」一期生)

赤坂圭一氏
(元青森県立三本木農業高校「いのちの花プロジェクト」担当教諭、
現青森県立名久井農業高等学校 農業クラブ顧問)

滝川クリステル氏
(フリーキャスター、
一般財団法人「クリステル・ヴィ・アンサンブル」代表)

進行：瀧 晴巳氏 (フリーライター、『世界でいちばんかなしい花』著者)

(2) 9月12日(土) 11:00~16:00 屋外行事

屋外行事は、上野恩賜公園噴水池前広場にて開催された。

大テントでは、動物愛護セレモニーを始め、金子真弓氏による犬のしつけ方教室、どうぶつのふれあい方教室、柴犬「まる」の飼い主小野慎二郎氏による写真教室、○×クイズ大会、松本秀樹氏による犬の五感体験等が行われ、各展示ブース・広場等では、野生化したペット対策、東京都動物愛護相談センターのお仕事紹介、こども広場、ペット写真展、スタンプラリー、葛西臨海水族園の移動水族館車等、各種の催しが行われた。(来場者：約8,000名)

本会は、実行委員会構成団体として、事前の各種会議に参画するとともに、インフォメーションブース、動物お絵かきコーナー、マイクロチップによる個体識別措置事業の展示を担当した。動物愛護セレモニーでは、運営委員の四宮勝之参加が出席した。



屋外行事会場入口のアーチ



動物愛護セレモニー



動物お絵かきコーナー



マイクロチップ普及啓発コーナー

図2 平成27年度動物愛護週間中央行事(屋外行事の様子)